

歯医者さんに行ったら



これだけは伝えて欲しいことがあります。

★服用中のお薬は、必ず伝えましょう！

★街の薬局などで購入したお薬も忘れずに！



『こんな危険があります!』

📖 もし、抗凝固剤を服用していることを言わなかったら？

治療中に出血が止まらなくなってしまうことがありますので、

歯科医師は出血させないように配慮する必要があります。

事前に必ず伝えておきましょう。

同時に抗凝固剤処方主治医にも歯科治療を受診することを伝えておきましょう。自己判断で、服用を中止することとは大変危険です。

📖 糖尿病の方は、感染症にかかりやすくなっています。

糖尿病の治療中の方は、歯科医師に必ず伝えておきましょう。

『お口の中に変化を及ぼす薬』

📖 カルシウム拮抗剤(降圧剤)・フェニトイン(抗てんかん剤)・シクロスポリン(免疫抑制剤)などのお薬は、歯肉が肥厚する場合があります。場合によっては服用中止になることもありますが、自己判断は大変危険ですので、必ず主治医にご相談下さい。

📖 口腔乾燥症

唾液腺の機能低下や消失による口腔内の異常な乾燥状態をいいます。これにより様々なトラブルを引き起こします。

口腔の違和感・強い口臭・口内炎・口腔カンジタ症・粘膜潰瘍・義歯性潰瘍の頻発・咀嚼・嚥下・味覚などの障害・口渇を示すようになります。どのような種類の薬剤でも長期服用は、口腔乾燥症を引き起こす可能性があります。

歯科衛生士からひと言

お口の疾患(むし歯・歯周病・知覚過敏)と口腔乾燥は密接な関係があります。唾液が減少すると、お口の衛生状態が悪くなり、様々な疾患に罹患しやすくなってしまいます。唾液が減少することで、唾液の保護作用・免疫力・自浄作用が低下し、生活の質(QOL)も低下してしまいます。主治医に相談の上で、同じ薬効で口腔に影響の少ない薬剤に変更してもらうことも一考です。

口腔乾燥用の歯科製品として、口腔用スプレー剤や人工唾液などを活用されることをおすすめします。

また、洗口剤はアルコール配合のものは控え、歯磨剤はラウリル硫酸ナトリウム(発泡剤)非配合のものを選択しましょう。

製品の選択にあたっては、歯科スタッフにお尋ねください。

糖尿病治療薬剤(経口血糖降下薬)について

医薬品名(例)	種 類	飲み方(一般的)
ダオニール グリミクロン アマリール	スルホニル尿素系薬剤 (SU 剤)	食前又は後
ベイスン	食後過血糖改善薬 (α グルコシダーゼ阻害薬)	食直前
メルビン	ビグアナイド系	食後
アクトス	インスリン抵抗性改善薬	朝食前又は後
スターシス	速効型食後血糖降下薬	食直前
ジャヌビア	選択的 DPP-4 阻害剤	食前又は後

種 類	服薬上の注意	主な副作用
SU 剤	腎機能が低下すると 低血糖を起こしやすい	低血糖
α グルコシダーゼ 阻害薬	低血糖に対して必ずブドウ糖もしくは ブドウ糖含有の飲料を服用する	低血糖、腹部膨満感、放屁、偽イレウス 症状、 下痢、便秘など
ビグアナイド系	嘔吐、下痢、筋肉痛、過呼吸などの 症状が出たら、 すぐ主治医のところへ	乳酸アシドーシス、低血糖、 肝機能障害、腎障害
インスリン 抵抗性改善薬	月 1 回の 肝機能検査が必要	浮腫、体重増加、心不全、 肝機能障害、 低血糖(併用の場合)
速効型食後 血糖降下薬	お薬を飲んだ後 10 分以内に食事を摂り始めること	低血糖、心筋梗塞、 肝機能障害
選択的 DPP-4 阻害剤	定期的な肝腎機能検査 激しい腹痛・嘔吐が生じた場合は、速 やかに医師の診察を受けて下さい	アナフィラキシー反応・低血糖・ 肝腎機能障害・急性膵炎・ 間質性肺炎

糖尿病の方は感染症にかかりやすい

感染症とは、病原体(細菌、ウイルス、真菌など)によって起こる病気の総称です。

糖尿病の患者さんは、免疫力が低下するので、さまざまな感染症にかかりやすく、感染力の弱い病原体にも罹患してしまう場合があります。

一般にみられる肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、胆嚢炎、皮膚や軟部組織の感染なども糖尿病でない方に比べてかかりやすく、重症化しやすいので注意が必要です。

一旦、感染症にかかってしまうと、血糖コントロールを更に悪化させることになります。主治医とご相談の上、管理を行ってください。

お薬の相互作用に注意

糖尿病のお薬は、他のお薬との相互作用で血糖値が高くなったり低くなったりします。街の薬局や歯科医院でも糖尿病であることを伝えて下さい。例えば、ステロイド剤は血糖値を上げる作用があります。

高血圧治療薬剤(降圧薬)について

医薬品名(例)	種 類
アムロジン錠	カルシウム拮抗薬
プロプレス錠 ニューロタン錠	アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬 (ARB)
レニベース錠	アンジオテンシン変換酵素阻害薬 (ACE 阻害剤)
テノーミン錠	交感神経抑制薬:β (β遮断剤)
アロチノロール塩酸塩錠	交感神経抑制薬:α・β(αβ遮断剤)
カルデナリン錠	交感神経抑制薬:α (α遮断剤)
フルイトラン錠	降圧利尿薬:チアジド系
アルダクトン A	降圧利尿薬:カリウム保持性
ラシックス錠	ループ系利尿薬(降圧効果は弱い、 腎機能低下の方に適用)
プレミネット配合錠	降圧利尿薬 +アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬

『生活習慣の修正項目』

(日本高血圧学会(JSH)の高血圧治療ガイドライン 2009 より)

1. 食塩制限 6g/日 未満
2. 野菜・果物の積極的摂取(腎障害のある方・糖尿病の方は除外)、コレステロールや飽和脂肪酸の摂取を控える、魚の積極的摂取
3. 適正体重の維持 : BMI[体重 kg/(身長 m)²]が 25 を超えない
4. 運動療法:有酸素運動 30 分/日 以上(心血管病の無い方)、歩行を推奨
5. アルコール制限 : 日本酒 1 合以下、ビール 350ml/日以下
6. 禁煙

高血圧治療薬剤(降圧薬)について

種 類	服用上の注意	主な副作用	歯科関連の副作用
カルシウム拮抗剤	グレープフルーツ全般(果実・果汁)を食べない	動悸、顔面潮紅、頭痛、浮腫	歯肉肥厚、口内炎、口が渇く、出血が止まりにくい
ACE 阻害剤	特になし	咳、発疹、貧血	口内炎、歯肉出血、出血が止まりにくい
ARB	特になし	低血糖、発疹	口内炎、歯肉出血、出血が止まりにくい
利尿剤	飲み始めの 1～2 週間は、服用後 10 分～3 時間後の間に尿が多くなるので、服用する時間を留意する。 ★ループ系利尿剤は特に利尿効果が強い	食欲不振、悪心、嘔吐、発疹、倦怠感、視力異常、 『チアジド』類似系』 光過敏症、低カリウム血症 『カリウム保持性』 女性化乳房、月経異常、高カリウム血症、急性腎不全 『ループ』脱水、代謝異常など	口が渇く、口内炎、口周のしびれ感、出血が止まりにくい
β遮断剤	特になし	徐脈、めまい、頭痛、倦怠感、発疹、視力異常、霧視、涙液分泌減少	口内炎、出血が止まりにくい
α遮断剤	尿道平滑筋における作用により尿失禁がみられることがある	めまい、頭重感、発疹、かゆみ	口が渇く、口内炎、出血が止まりにくい

妊娠と薬剤の服用について

■ 奇形の原因で一番多いのが医薬品なのでしょうか

通常妊娠、お薬を服用していない妊婦さんであっても出生時の奇形発生率は約 1～3%存在します。その他明らかになる異常を含めると、先天性異常リスクは 3～5%存在します。

先天性異常リスク 3～5%のうち、染色体異常や遺伝子異常が大半を占め、次に母体感染や母体疾患など環境要因が先天性異常リスクの約 1 割程度、薬剤によるものは 1/10 割程度とされています。

■ 一番注意が必要な時期は、妊娠 4 週～15 週

この期間は、赤ちゃんの体が作られる時期なので、一部の薬の使用により奇形が発現する危険性(催奇形性)があります。妊娠後期に入れば、催奇形性の心配は少なくなりますが、薬によっては、赤ちゃんの発育や機能に悪い影響をすることがありますので、慎重に服用しましょう。

なお、慢性疾患のお薬を常用している方は、妊娠を計画される時から医師と相談されることをおすすめします。

期 間	胎児の状態	薬の影響
最終月経～ 30 日前後	受精成立	胎児への影響は殆ど無い
妊娠 4 週～ 15 週	外形や臓器が作られる時期 (中枢神経、心臓、消化器などの臓器が発生分化する時期)	催奇形性の可能性がある
妊娠 16 週 ～分娩	体の成長、機能的発達	赤ちゃんの発育や機能に 悪い影響を与える(胎児毒 性)可能性がある

妊娠中、どうしても解熱鎮痛剤を飲まなければならない時は、アセトアミノフェンを選んでください。

★妊娠末期(分娩直前)では、胎児の動脈管の閉鎖を引き起こす為、解熱鎮痛剤や消炎パップ剤などは、絶対に使ってはいけません。人から頂いてうっかり湿布を貼ってしまうなどのことの無い様にして下さい。

甲状腺疾患、てんかん、喘息、高血圧、糖尿病などで服用されている方は、胎児のために服薬を中止するのは逆効果です。必ず主治医と治療方針を相談しましょう。

疾患名	疾患が胎児へ与える影響	妊娠中の治療薬
甲状腺疾患	流産、早産、発育不良、甲状腺機能障害	プロプルチオウラシル 甲状腺ホルモン剤
てんかん	低酸素状態、催奇形性	殆どの治療薬に催奇形があるが、てんかん発作による奇形率に及ばない
喘息	低酸素血症、早産、子宮内発育遅滞、周産期死亡	吸入・経口ステロイド、 吸入・経口β刺激薬 テオフィリン
高血圧	低酸素血症、発育不良、早産	メチルドパ、ヒドララジン
糖尿病	催奇形性	インスリン

補足:『授乳とくすり』

授乳中でも、母親の治療のために薬が必要な場合があります。

医師は、できるだけ安全な薬を選んで処方します。授乳中に安全な薬とは、母乳中へ移行しない薬、あるいは移行量の少ない薬、または副作用の少ない薬などです。多くの場合、授乳を続けられますが、生後まもない時期や、薬の種類によっては授乳を中止するよう指導されることがあります。

■ ペニシリン系抗生物質

乳腺炎の治療に合成ペニシリンを使用しますが、これは、セフェム系に比べて乳汁中に分泌されやすい薬剤です。授乳により赤ちゃんに下痢やカンジダ症を起こすことがあるので、授乳を一時中断します。

■ セフェム系抗生物質

乳汁中ほとんど移行しないので、授乳中でも比較的安全です。

■ テトラサイクリン系抗生物質

テトラサイクリン系は乳汁中にも分泌され、赤ちゃんの歯が着色したり、骨の発育に障害が起こったりする可能性があります。服用のときは授乳を中止します。

■ マクロライド系抗生物質

乳汁中に移行するので、授乳は原則中止します。

■ 抗菌製剤といわれる薬剤（例:クラビット錠）

授乳は避けて下さい。

歯周病と妊娠の関連

「歯周病と早産・低体重出産の関連性」

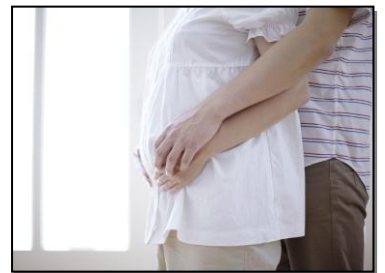
オーラルヘルスと全身の健康より引用(P&G 株式会社)

早期(早産＝妊娠 22 週～36 週の間で出産してしまうこと)、低体重児出産(2,500 グラム未満の新生児)のリスクファクターとして、年齢(17 歳以下、35 歳以上)、喫煙・飲酒・麻薬・人種などが挙げられます。

これらの因子以外による早期低体重児出産は、約 20%存在するといわれています。その 1 つが『歯周病による早期低体重児出産』です。歯周病とは、長年のプラークの蓄積(歯周病原因菌の塊)により、歯を支えている歯肉・骨が破壊される病気です。

歯周病の局所では、分娩に関わる炎症性物質の上昇が認められます。歯周病の妊婦は、分娩の後期に至る前に、この炎症性物質が早期に上昇し、その影響で分娩時期の前に頸管熟化と子宮収縮が引き起こされます。この結果、早産に至るのではないかと考えられています。また、産科器官に歯周病細菌が直接感染することにより、早産だけでなく、胎児の発育不全による低体重児出産をも引き起こすといわれています。

妊婦が歯周病と早期低体重児出産の関連性を強く認識し、口腔衛生の維持・向上に努めることは、早期低体重児出産の予防に繋がり、ひいては、生まれてくる子供の健康に繋がることはいうまでもありません。



血栓予防薬剤(抗血小板薬・抗凝固薬)について

血栓予防薬剤(抗血小板薬・抗凝固薬)とは、血栓症の発症予防を目的とした薬剤です。効果は遅延性であるため、服用を始めてもすぐに効果は現れません。また、何らかの理由で服用を中止しても、すぐには血小板機能・凝固能は戻りません。観血的な歯科治療(抜歯など)が行われる際は、服用を中止しないものですが、予め歯科医師、医師らに相談してください。

種類	商品名 (代表例)	服用を中止してから 止血効果が現れる時期
抗血小板剤	バファリン 81mg	薬が作用した血小板(寿命 7 ～10 日)が無くなり、 新しい血小板が生まれた後
	プレタール	半日～1 日後
	アンブラグ	2 日後
抗凝固剤	ワーファリン	5 日後 服用の中断及び開始に伴い、 かえって血栓を形成する恐 れが大きい。

注意!

服用中止は、医師が必要と認めた特別な場合(手術など)に限ります。ワーファリンは、他の薬剤に比べて、特に食品(健康食品含む)・医薬品との相互作用が非常に多いので、思いがけない組み合わせで作用が強まったり、弱まったりします。

体が疲れているサイン：口唇ヘルペス

『単純ヘルペス』

抗原性 1 型：一般に口腔内に感染し、上半身の神経節に潜伏

2 型：主に性交で感染し、下半身の神経節に潜伏

口唇ヘルペスは、1 型の単純ヘルペスで、通常不顕性に感染します。

時に口腔・口唇周囲に反復して水泡を形成し発症します。

最近では、発症部位も様々な 1 型の単純ヘルペスの症例が増加しつつあります。

『治療薬』

抗ウイルス剤(ウイルスの DNA 合成を阻害)一覧

商品名	成分名	
ゾビラックス	アシクロビル	腎機能が低下していると、精神神経系の副作用が現れやすい
バルトレックス	バラシクロビル	体内でアシクロビルになり作用する
アラセナーA	ビタラビン	有効性・安全性においてアシクロビルに劣る

『お薬を使用するときの注意』

ウイルスの増殖を抑える働きします。すでに増殖してしまったウイルスには効果がありません。できるだけ速やかにお薬を使用することで、これから増殖するウイルスを阻止させて症状を抑えていきます。

効果が表れるには 1～2 日かかります。

服薬チェックシート

どんな薬を飲まれていますか？

備忘録(薬品名など)	種 類	日 付

《メモ》

